

写楽同会

令和2年6月30日 54

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

水無月兼題「郵便」 出題：北切雀

写真俳句



1 切手貼り君届けたし初夏の風

独り占めするには贅沢すぎる、高原の風の心地よさ。



2 グラナダは黄色いポスト五月晴れ

12年も前にグラナダにアルハンブラ宮殿を訪ねた時、この黄色いポストがあったのを、今回の兼題で思い出した。Netで探してみると世界には赤の他、黄、青、緑などのポストがある事が判った。日本にも黄色いポストが数か所あるらしい。「五月晴れ」は仲夏の季語。



3 絵手紙の仕上げの四葩 藍を入れ

絵手紙風に作ってみました。季語「四葩」（よひら）は紫陽花の異名。



4 夏来たるコロナ踏み付け郵便婦

コロナ休業中のレストランの前を、郵便屋さんが颯爽と行く。女性なので「郵便夫」を「婦」に変えました。テレワークができない仕事、ご苦労様です。



5 黒南風や遺品の切手届きけり

親戚の叔母が亡くなり40年間郵便局に勤務、遺品の切手が届きました。



6 登りきて汗ぬぐいしやポストマン

歩いて配る郵便屋さんに感謝。



7 夏来たる 人待ち顔のポストかな

合掌造りの土産物屋もポストも観光客を待ちわびているようでした。



8 南風（はえ）にのり遠い道ゆくポストマン

俳句

1 暑のこもる郵便袋上り坂

坂の多いところは配るのが大変。

2 バイク音 夏さわやかに ポストマン

3 雨あがり郵便局の薔薇わらひ

村の郵便局の入口で咲いている薔薇です。

4 読み返す友の便りや五月闇

梅雨が明けたら会いに行こう。

5 巢籠もりに佳き事も知る夏だより

暑中見舞いに出産の報告が…

6 椿植えし祖父へ送らむ花便り

40年も昔祖父が植えた椿が今年は大輪の花をつけました。

7 来信や難病告げる梅雨曇り

友人より難病との連絡がありました。初めて聞く病名でした。



熊野本宮大社 緑の八咫鳥のポスト

撮影：準坊

短歌

久芽 素っぴんをマスクで隠し花柄やレースも有りのニューファッション

準坊 夢に見し友気になりてダイアルす 元気？元気！にひと安堵して

ご無沙汰の友人の夢を見てコロナ禍もあり声が聞きたくなりました。

北切雀 母の文「今日の献立」書き連ね結びはいつも「健康第一」

筆まめな母でした。

川柳

準坊 トランプの口を塞げよアベマスク

盟友のトランプの口を封じる大きめのアベノマスクを送ってやって。

光り見ゆ安倍一強に翳り出て

モリカケサクラ・現金給付・SNS動画・布マスク・検察庁法改正等、失態続きいよいよ・・・ですね。

北切雀

古希過ぎて占いスルーの週刊誌

週刊誌の星占いは恋愛と仕事のこと。卒業しました。もう何座でも未来は同じ。

写真投稿

昼寝覚

赤城高原白樺牧場にて



iSAMU 3点



1 白雲木

遠目には白雲が棚引くように見えることから白雲木だそうで、志木ニュータウンにあります。



2 梅檀（せんだん）

「梅檀は双葉より芳し」の梅檀です。実は梅檀は平家物語で間違えられ、それが継続されているのだそうです。正しくは白檀の木のことで、こちらは香木で匂います。白檀ではありません。白檀はインド、インドネシアの木で日本では育ちません。梅檀は志木にあります。



3 梅檀の花

令和2年5月「藤」（読者：FNさん出題）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

写真俳句 投票数：34

一席

昇り藤宙に翔び立つ数千基 池福楼（7票）

<< 那須高原にあるフラワーパークの見事なルピナス（和名：昇り藤）に圧倒されました。>>



- * ルピナスをロケットに例えた比喻が面白い。
- * 昇り藤がロケット！？ 新鮮な発想ですね。
- * ルピナスが昇り藤という和名は勉強になる。偶然かもしれないが、民間宇宙船がはじめて有人に成功し、トピカル俳句だな、と感心。
- * この風景を見てすぐに藤の花と繋がる事がすごいと思いました。
- * 本当にロケットの様ですね。

むらさきの滝の如しや藤の花 準坊（7票）

<< 藤棚から滝の流れるごとくに藤の花が垂れていました。>>



- * きれいな藤写真が並んだ中でもこの写真の色が一番。確かに滝のようです。
- * 藤の満開のさまを「滝」に見立てた視点は古来から多くの歌にも登場しますね。
- * 満開の時の藤の様子と写真がいいですね。
- * 「むらさきの滝」綺麗な比喻ですね。
- * 普通いし小学校にあった藤棚が懐かしく思い出されます。「むらさきの滝」綺麗な比喻ですね。
- * 綺麗な滝。



庭に咲く 藤色てっせん今盛り 梵木

- * 「クレマチス」と名が変わってしまった今、「てっせん」は嬉しい。大好きな花ですが、水あげが悪くて活けるのに苦労しました。梅雨前のいい季節を詠んだ句ですね。
- * 美しい紫色です。蕾から開花まで楽しみと癒しを得ましたね。
- * 梅雨の季節に目の覚めるような華やかなてっせんの花ですね。



人去りてなお優雅なる藤の花 久芽

<< 外出自粛要請の中、コロナ恐れず自分の仕事する藤の花。>>

- * 造花かと思えるほどの美しさは、人間のためではない。
- * コロナ恐れずの言葉に感動です。私も自分の仕事に花を咲かす気持ちで頑張ります。
- * 花は人の愛でることが無くても、その美しさを全うする。こんな絢爛たる情景は晩春の日本の方方に存在している。



義母残し藤の鉢植え今盛ん iSAMU

<< 足利フラワーパークにはそれは見事な藤が咲く。何年か前に義母がそこで買い遺した藤が、コロナ禍一色の今、見事な房を垂らして咲く。>>

- * 思い出ひとしおの花ですね。
- * 足利フラワーパークに行きたくなりました。花を残すって良いですね!!!
- * 咲きほこる藤の花を通してお義母さんとの対話を楽しんでいる様子が素敵です。

* 私も足利フラワーパークの藤に圧倒されました。藤の花の香りにも魅了されました。この句の「義母残し」が気になりました。作者コメントでは遺しとなっていますが。

編集注：「残し」か「遺し」かは作者さんに確認すべきでした。見逃して申し訳ありませんでした。



藤や藤 陽を受けて今咲かんとぞ 一枝

<< 十数キロ歩いた後この家のある村に辿り着いて、藤の花の見事なのにほれぼれし、疲れを忘れまして。>>

- * 見上げた藤の花に感銘し癒されてる感じが有りあり。
- * 「藤や藤」と詠嘆の上五で息をのむ美しさが伝わる。
- * 小旅行の終わりに心に沁みる風景が表れる。
- * 家も窓もまたその窓にかかる藤の花も素敵で憧れます。こんな風に咲かせるなんてお見事で、ぜひこんな部屋に住んでみたいものです。

* 他の花同様に、藤も限られた時間の中で一生懸命咲いてくれることがうれしいね。



街中に深山のごと藤の咲く 昼寝覚

<< 我が町のあるお宅には毎年見事な藤が咲きます。まるで深い山の中にいるようです。>>

- * 住宅地でこんな藤に出会ったら、茫然自失。
- * 見事な藤の咲くこのお宅には、作者も毎年この時期を心待ちにしているでしょう。

近づきてやっと気づきし藤の花 千泉

<< 藤棚のイメージしかなかったので、ちょっと新鮮でした。>>

- * 一軒だけでなく、ご近所も揃って藤を丹精している通りですね。家自体が保存指定になっているようにも見えます。
- * ところ変われば品変わるじゃないですが、私も藤棚や鉢植えや自然の山藤くらいしか見たことがないのでこれは意外で驚きました。まるで自然の中にある藤を自分の家に持ってきて楽しむような、しかも家を飾るように這わせて周りの人も楽しめるなんて最高！！
- * 写真のような植え方もあるんですね。

* 見慣れた藤房もなく、近づき発見した花を眺め入る。一種の季節の驚きを感じ取れる。



藤にはほふ若き花房揺れもせず 北切雀

<< 前代未聞の年、異例の年と言われる中、藤は例年通りに咲く。盛りの前の若い花房に固さと傲慢さを感じた。>>

- * 藤は垂れ下がる風情が美しい。若い花房が藤の女性らしさを拒絶した力強さに、作者は憧れにも似た生命力を感じたことでしょう。
- * 藤が揺れるのは成熟した花なのでしょうか？

作者：自分がそう感じただけで、単に風がなかっただけです（笑）。

* 素晴らしい藤の大木ですね。ただ「花房揺れもせず」で何を意味しているか、解説文を読まないとちょっと分かりにくい。

作者：「風」と言わずに「揺れ」で風を暗示したつもりでしたが、力不足でした。



俳句 投票数：32



撮影：iSAMU

一席

サヨナラの一筆箋に藤の花 池福楼（7 票）

<< 別れの一行の文よりも、隅に印刷された藤の絵が記憶に残る…。>>

- * 「サヨナラの一筆箋の藤の花」と韻を踏んでも面白いかも。
- * これは図らずも5月号 1 の句と一対になる句で、短編小説を読むようでした。藤の一筆箋なら送り手は女性でしょう。万感の一言より一筆箋のデザインが？ そういう薄情な男とはさっさと別れて正解。
- * 藤色の淡い感じが一筆箋という文言にピタッとくる感じがします。
- * 作者は男性だと思うのですが、結構ロマンチストな人の句かな？
- * 別れの手紙ですか、何となく意味深ですね。
- * どうでもいいサヨナラだったのですかね。

藤の下うすむらさきの雨しとど 北切雀（7 票）

<< 北九州市の見事な藤のトンネルの写真を思い出し、その花が雨だれを思わせました。>>

- * 情景が浮かぶ素敵な句ですね。
- * 控えめな藤のイメージを切り取ってくれるのに感心。
- * とても綺麗な句だと思います。
- * 房の姿を雨に喩えたことが新鮮。こんな雨に打たれてみたい。

佳作（令和2年5月号掲載順）

一人でコーヒータ暮れの藤の花 一枝

<< 植えてから何年経っても咲いてくれなかった藤と、昔悪い男に待ちぼうけを食わされた記憶。>>

- * 迫る夕闇。寂しく切ない心情と藤の風情を、変則七五五で纏めた腕はさすが。
- * こんな思い出、誰にでもありますよね～。記憶って何かによってよみがえりますね。
- * まるで歌詞のような一句、ロマンティックさが漂います。
- * 藤の花は寂しさや、感傷的な気分も現実離れした空間に、柔らかく包み込んでしまう。

ステイホーム見ること叶わぬ藤の花 久芽

<< 藤を見に行く事も出来ず、ステイホームはいつまで？>>

- * イギリスもホームセンターが閉まって、多くの植物の鉢が捨てられたそうです。
- * 行きたい場所リストがたくさん出来た外出自粛期間です。本当に安心できる日が来たらゆっくりひとつづつ巡りたいです。
- * 美しい花を直接見ることが出来ない時は想像の世界に遊ぶしかないですね。
- * コロナのこの時世、写真の藤の花を見るだけでも、心が爽快になりますね。

犬ほえるそつとゆれるよ藤の花 梵木

- * ワンちゃんもきれいな藤に声をかけたかったのでは。
- * 犬は何を怖れているのか。穏やかな日常に囲まれた漠然とした不安に咆哮するのか？そこに藤の花が微妙に絡む面白さ。

地に着くと思わず程の藤の房 千泉

<< 地元の藤園で見た大きな藤の房を、藤を見るたびに思い出します。>>

- * 見事な花ぶりがよくわかります。
- * 満開の藤がストレートにとらえられて、脳内にスーッと絵が浮かぶ。
- * 地に垂れるような藤の花房は振袖姿の艶やかな女性を思わせます。
- * 大きな藤の花が目には浮かびます。

藤の香や光源氏の恋乱る 準坊

<< 藤の花から「源氏物語」の藤壺女御に発想を飛ばしました。>>

- * これは意外な句で新鮮。
- * 光源氏は聡明な藤壺、紫の上と、藤色に因んだ人物が絡みますね。
- * こういう句がなかなか詠めないので、いいなと思いました。
- * 発想の飛ばし方がステキ。

次々と風の撫でゆく藤の花 昼寝覚

<< 藤に風、月並みですが。>>

- * 藤の揺れる美しさを彷彿とさせます。
- * ダンスをするような藤の花々の姿、想像すると歌声までも聞こえてきそうですね
- * 藤の房がフィルターとなって「香の風」になっています。
- * とても涼しげな句で、梅雨の蒸し暑さが和らぎます。

短歌

準坊 目を閉じてジャズに浸るも
"ただいま"の
妻の一声至福の終わる

<< 一人の時間に好きなジャズを聴くも・・・.>>

- * 奥様の帰宅が嬉しいくせに。やせ我慢しない。
- * 準坊さんはハインな趣味をお持ちですね。当家は昭和歌謡のCDばかり、妻も一緒に聞いています。



久芽 三密の犠牲になりし花祭り来ては駄目だと花切り取られ

<< あちこちで花祭りが開催されてますが、密になるというので残酷にも花が切られる所も。>>

- * このニュースは私も酷く違和感を感じたものです。花に責任は無いはず。

北切雀 藤の芽を干して遊びの茶葉とせし幼き吾よはるかをはるか

<< 生家の庭には藤棚がありました。藤の新芽は乾くとくるっと丸まって本当に茶葉のようになりました。ヒバの葉を泥水につけ、乾いた土をまぶした「アジフライ」が得意料理でした。>>

- * 数十年前の風景が蘇ります。子供の想像力が今よりもはるかに豊かな時代でした。

川柳

準坊 空いた口塞がらないよアベノマスク

<< アベノマスクより一刻も早く医療崩壊を防ぐ手立てを・・・.>>

- * このマスク、国会でもムキになって使っているのは某総理と数人の忖度役人だけ。

写真いいね

むらさきの滝の如しや藤の花 準坊



推薦者: 5名 (1名コメントなし)

- * フジの色が素晴らしい!
- * 「藤娘」の舞を彷彿とさせる。左上の三角に入る緑、見事な藤、そして花の下の空間と右上から左下に斜めに切るのは浮世絵の伝統構図でしょうか。きれい。
- * 綺麗! 何かフィルターかけてるとか? この藤の色は格別!
- * シーズン真っ盛りの見事な藤の花。写真がさらに美しく。これぞ写真いいね! です。

写真投稿

北切雀

<< イギリスでは藤は棚ではなく、建物に添って咲くのが一般的です。写真は塀に這わせたご近所のお宅です。>>

- * イギリスの家庭園芸が珍しい。同じ花でもお国柄の違いがわかります。またアップしてください。



iSAMU



* 山中の藤というのは初めて見ました。野趣あふれる藤の姿。

- * 令和2年文月7月はiSAMUさんから「百合の花」、葉月8月は昼寝覚さんから「雲」と出ています。
- * 令和2年水無月6月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳也大歓迎です。
- * 令和2年6月号への投票、7月号作品への投稿の締め切りはともに7月20日です。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」(五十音順)

池福楼、iSAMU、一枝、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

筆責：北切雀 校正：準坊、池福楼

写楽句会 連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

<http://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
 四季の森空間 <http://isamusouma.web.fc2.com/>